

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2297200368		
法人名	有限会社ナチュラルケア浜松		
事業所名	グループホーム安寿		
所在地	静岡県浜松市中区高丘北2丁目16-4		
自己評価作成日	令和2年7月26日	評価結果市町村受理日	令和2年10月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2297200368-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	令和 2年 8月 16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当法人としては、会社の理念である尊厳のあるその人らしい生活基礎として、入居者お一人お一人に寄り添いながら安心して生活ができるケアをすすめております。また法人として若者を育てる社風のもと人材育成に力をいれ、スタッフが活躍で力を発揮できる環境を整えています。働きやすい環境として、介護記録のITを取り入れ、弊社独自のアクセスコードをおこなう事により、介護記録の簡素化、データ一化、ペーパーレス化を実現し、利用者との関わられる時間をつくる事ができ、介護記録の標準化により、未経験の方でも簡単に記録できるようになります。気分転換を図る為、レクリエーションを充実させ、個々に合わせた方法やペースで一人一人に楽しんで頂ける環境づくりを心掛けています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人の理念「尊厳のある その人らしい 穏やかな生活」を基本として、行動指針「関わりの7原則」を実践している。同法人の2事業所が併設し、運営推進会議や研修会を始め、地域行事への参加・事業所行事の際には、協力しながら実施している。閑静な住宅地にあり、近隣公園への散歩や学生・生徒の職場体験を積極的に取り入れ、地域との交流を深めてきたが、新型コロナウイルス感染拡大防止対応のため、家族の面会を含め、現在は制限している。利用者にとってより良い支援をめざし法人独自の「アクセスコード」を導入して、職員が行う支援の状況を記録・分析し、若い職員の資質向上と支援の標準化を図っている。食事担当職員を決め、利用者の好み・状態に合わせた献立作りや食材購入を心掛け、利用者の手伝いを取り入れながら、手作りの美味しい食事を提供している。2階建て構造の建物は、共有部分と居室部分にわけられ、明るい落ち着いた空間で過ごすことができる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「尊厳のある その人らしい 穏やかな生活」を理念とし、玄関に常時掲示し、職員間で共有、意識をし就業している。	法人理念と行動指針「関わりの7原則」を事業所入口や事務所内に掲示し、常にケアの原点を意識しながら、日々の支援を実践している。管理者は、都度、職員とともに自己評価を行う機会を設け、職員間の情報の共有を心掛けている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	近所への散歩等の中で、挨拶をはじめ、交流をもっている。毎年の秋祭りでは施設前に御殿屋台の引き回しをして頂き、交流を図っている。	秋祭りなどの地域行事に参加し、地域交流を図っている。近隣中学校2校の生徒が職場体験に参加し、最終日にソーラン節を披露してくれた。毎月浜松医大の学生(看護師志望)が来訪し、利用者との交流や職場体験の機会を設けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	推進会議にて、入居者様や施設の状況等を報告し、知って頂き、ご意見を頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者様やサービスについての報告を2ヶ月に一度させて頂き、ご意見を頂いた際は、現場で取り入れる事が出来るよう職員間で話し合いを行っている。	浜松市職員・地域包括支援センター職員・民生委員・自治会代表が参加し、2か月に1回(奇数月の第3水曜日)開催している。3月からは新型コロナウイルス感染防止対応のため書面開催とし、議案書を郵送後、電話・FAXにて意見交換を行った。議事録を作成し、都度配布している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	推進会議を利用し、施設の取り組み等を伝え、ご意見をうかがい、協力していただける事はお願いをしている。	市職員は運営推進会議に参加し、情報交換を図っている。後日議事録を届けるなど、常に連絡を取ることが出来る関係を築いている。静岡県認知症事業所連絡協議会の研修会に参加し、他事業所との情報交換をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内で勉強会を行い、身体拘束についての理解をしている。玄関の施錠をはじめ、入居者様へのケアの面でも、日々注意を払っている。	「身体拘束廃止に関する指針」を事業所玄関等に掲示し、検討委員会での勉強会などを通して、常に意識して支援を行っている。車椅子介助やトイレ介助の際、利用者の様子を観察し注意を払いながら支援できるように、職員で話し合っている。	

静岡県()

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を行い、虐待について理解し、現場でそのような事がないよう、職員同士で気を付け合いながら防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現状、制度等を学べる機会を設ける事ができていない為、勉強会等を今後開催したいと考えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	日々の面会や電話連絡の際、随時ご家族様の要望を尋ね、不安の軽減を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	推進会議にて、入居者様やご家族様の声を報告させて頂き、現場や運営面で反映出来る様努めている。	請求書送付時には、写真を付けて、利用者の暮らしぶりや様子を家族へ伝えている。訪問時には声掛けを心掛けているが、新型コロナウイルス感染防止対応のため、現在は手紙や電話での連絡に注力している。	コロナ禍の中、来訪を中止しているため、家族の意見・要望を聴き取る機会が減っています。直接要望を聴く手段として、「家族アンケート」実施の検討を期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	事務所に職員の意見が掲示できるボードを用意し、伝言板のような形で活用している。	「連絡ノート」や事務所内のホワイトボードを利用し、職員間の意見交換・情報共有に努めている。ホワイトボードは付箋を貼り、伝言板として役立っている。年2回法人マネージャーが面談したり、都度管理者が面談を行って、職員の意見を聴く機会を設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	負担に偏りが無い様、業務の振り分け、勤務表作成を行っている。やりがいや向上心の面では、就業する中での小まめな声掛けを心掛けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各職員に合った方法等を考え、本人に提案し、経過報告をしてもらいながら随時考えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部の講習会等に参加し、同業者でも様々な役職の方々と意見交換をしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご入居前には、書面での情報を参考にし、ご本人様を知る為、行動や傾聴を大切にしている。ご家族様等からの聞き取りも行い、関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の要望や不安を聞き取り、職員間で共有し、反映している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	聞き取りを細部まで行う。体調や事故の危険性等に合わせ、介護用品等の変更や提案をさせて頂く。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物たたみや食器拭き等を見守りしながら一緒に行い、やり方が分かりやすい様に工夫する。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話連絡時に近況報告をさせて頂き、状況により、ご協力をお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時間を決めず、面会希望の方の都合のつく時に来ていただくようにしている。よく訪れていた場所等へも、職員の動ける範囲であれば頻繁ではなくても行けるように心掛けている。	入居前に通っていた美容院や、車で住んでいた町へ出掛けるなど、利用者の希望に応じて関係継続の支援をしている。新型コロナ感染防止対応のため外出ができない中、訪問美容を利用したり、事業所や職員が馴染みとなり安心できる関係を築くことができるように心掛けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の関係性を理解し、共に会話や作業が行えるよう、職員から声掛けを行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご利用機関ではなくても、再度お会いする事があれば、その際は近況等お話をさせて頂く。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の変化に敏感になる。傾聴を大切にし、ご本人が希望を言しやすいような雰囲気づくりを心掛けている。	利用者・家族から入居前からの様子を伺い、「利用者基本情報」「ADL表」を常に確認しながら、対応している。日々の暮らしぶりを観察し、利用者の希望を見逃さないように日常の会話を心掛け、職員間で情報を共有しながら支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	書面やご家族様からの聞き取りをし、ご本人様にも日常の中で会話をする中で聞き取る。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタル測定をし、変化を見る。食事量や顔色、言動も観察し、他入居者様等周囲との対人関係にも目を配っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様やご家族様と相談をし、意見を聞いたうえで、職員間でも話し合いをしている。	「心身の情報(私の姿と気持ちシート)」を職員それぞれが記入し、職員同士の情報の共有に役立てている。利用者の様子や家族の意見などを、職員間で話し合い、介護支援計画に反映させている。法人独自の「アセスコード」システムを活用し、職員の支援状況を登録・分析しながら、より良い支援につなげている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録や連絡ノートを活用し、またカンファレンスの時間を設け、その都度介護計画を変更している。		

静岡県()

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	既存の方法に捉われず、新しい方法等も考えている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	普段なら廃棄してしまう物でも、楽しみへと変わるよう使い道を探し、一緒に活用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設看護師と情報共有、相談をし、ご本人様やご家族様の希望に沿えるようにしている。かかりつけ医と情報交換や相談を密にしながら関係作りをしている。	かかりつけ医は、月2回定期的に往診している。月1回、歯科医の定期往診を受けている。緊急時には、すぐに往診してもらえるよう、日頃から相談できる関係を築いている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設看護師やかかりつけ医と細目にやりとりをし、適切な対応が出来る様心掛けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院の際や途中経過等、情報交換を細目に行い、スムーズな流れとなるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	バイタルチェック表を活用、細かく記録をし、ご家族様と相談し、必要に応じてかかりつけ医の医師にも身体状況の説明等をご家族様に直接お話をしている。	重度化した場合の指針を整備し、看取りを希望する際にも対応できる仕組みを作っている。看護師は週3回、隣接する同法人傘下の事業所と交互に常駐し、バイタルチェック表を活用して利用者の身体状況を把握し、常に主治医と相談しながら対応することができる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルを作成し、職員間で周知をし、迅速な対応が出来る様心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	同系列の事業所の対策等の情報も取り入れ、災害時の対応や備えを行っていきたいと考えるが、直前になりバタバタしてしまっている現状。	年2回避難訓練を行い、災害時の対応を職員で確認している。防災ヘルメット・米・水などの備蓄品を備えるほか、発電機を3台備え、停電時の対応ができています。2階からの避難経路として、非常用スロープ(滑り台)を設置している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その人がどのような人かを把握し、その人らしさを大切にしながら声かけを行っている。居室等その方が安心できる場所ですごせる時間を作っている。	利用者の表情や行動を観察し、他の利用者や職員との関係を把握して、利用者が心地よく過ごせるように配慮している。「アセスコード」を活用し、職員の支援状況を分析して、プライバシーに配慮した的確な支援を心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	表情を読み取り、こちらから声を掛け思いを表に出せるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その方がその時何をしたいのかを見極め、個々のペースに合わせて、危険のないように支援を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服選びや整容など、その方のこだわりに合わせて声掛けをしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は同席し、入居者様の声を直接聞く。盛り付けや食器拭き等を一緒に行っている。	メニュー系の職員と調理専用職員が、利用者の好みを反映させた献立を考え、週3回食材を調達して、美味しい食事を提供している。盛り付け・簡単な調理や3時の手作りおやつは、利用者と共に作り、楽しく食事ができるように工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その人の状態に応じた食事量を提供し、季節に応じた水分摂取等、気を付けながらの支援を心掛けている。		

静岡県()

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、食べ残しがなく、口腔ケアの見守り、ケア用品を用いた介助を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自尊心に配慮しながら、食前や入床前、声かけを行っている。	排泄状況は「ケア業務予定・チェック表」に記載し、利用者個々の排泄パターンに合わせた声掛けを心掛けている。車いす利用者の夜間トイレ誘導やポータブルトイレ利用の際には、特に留意して支援し、支援の状況は「アセスコード」を活用して記録している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品を食事に提供したり、体操等の運動を行っていただくよう促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	希望に沿った入浴を基にし、拒否がある方へは入浴を楽しめるよう工夫している。	毎日10時～16時、いつでも利用可能として、利用者の希望に合わせて週2～3回以上の入浴の支援をしている。脱衣所に音楽を流し、リラックスしながら入浴できるよう、入浴導入を工夫している。利用者の身体状況に合わせて、リフト浴も対応できる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々に合わせた寝具を使用し、温度調節等もこまめに行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	体調の変化を見逃さないようにし、記録に残し内服の見直しを看護師、医師へ相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の好みをレクリエーションに反映したり、関わりから表情や言動を情報とし、気分転換を行っている。		

静岡県()

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に、散歩、買い物等、個々に声かけをし支援に努めている。家族や地域の方との外出は現状あまりできていないが、今後提案していきたい。	事業所周辺は閑静な住宅地であり、公園への遊歩道など、利用者の希望や状態に合わせて、散歩や買い物に出掛けている。コロナ禍の中、家族の面会や外出を制限しているが、地域とのつながりを大切にしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の安心となるようであれば、ご家族に了承を得て、所持をしていただいている。使用する際は、職員の把握のもとで行っていただく。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望がある場合には、事前に職員からご家族などへ連絡し了承を得てからご本人へ繋げるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度計を設置し、過ごしやすい環境になるよう適宜調節をしている。光を入れたり壁に季節感が出るよう装飾をしたりしている。	共有スペースと居室スペースをわけた2階建て構造で、リフォームして明るく落ち着いた環境で過ごしている。窓からプランターの花を眺めたり、折り紙の作品を飾り、季節を感じられる工夫をしている。新型コロナウイルス感染予防対策として、こまめな換気・消毒に留意している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとりなじみの空間があり、居心地の良い場所を提供できるよう、自由に動けるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居当初より、使い慣れたものや好きな物を居室に持ってきたり持ち歩いていただくようご家族へお話をしている。	居室は、クローゼット・エアコンは造り付けられ、窓は障子で、落ち着いた室内である。利用者の希望で、入居前と同じように布団で生活したり、鏡台や鞆・財布を持ち込んでいる。随時家族に連絡を取り、部屋の整理整頓を行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来るだけ階段で自立歩行を促している。その都度何ができるのか、分かるのかを体調、精神面などから見極める。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2297200368		
法人名	有限会社ナチュラルケア浜松		
事業所名	グループホーム安寿		
所在地	静岡県浜松市中区高丘北2丁目16-4		
自己評価作成日	令和2年7月26日	評価結果市町村受理日	令和2年10月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当法人としては、会社の理念である尊厳のあるその人らしい生活基礎として、入居者お一人お一人に寄り添いながら安心して生活ができるケアをすすめております。また法人として若者を育てる社風のもと人材育成に力をいれ、スタッフが活躍でき力を発揮できる環境を整えています。働きやすい環境として、介護記録のITを取り入れ、弊社独自のアクセスコードをおこなう事により、介護記録の簡素化、データ化、ペーパーレス化を実現し、利用者との関わられる時間をつくる事ができ、介護記録の標準化により、未経験の方でも簡単に記録できるようになります。気分転換を図る為、レクリエーションを充実させ、個々に合わせた方法やペースで一人一人に楽しんで頂ける環境づくりを心掛けています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2297200368-00&ServiceCd=320&Type=search

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	令和 2年 8月 16日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自 己	外 部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「尊厳のある その人らしい 穏やかな生活」を理念とし、玄関に常時掲示し、職員間で共有、意識をし就業している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	近所への散歩等の中で、挨拶をはじめ、交流をもっている。毎年の秋祭りでは施設前に御殿屋台の引き回しをして頂き、交流を図っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	推進会議にて、入居者様や施設の状況等を報告し、知って頂き、ご意見を頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者様やサービスについての報告を2ヶ月に一度させて頂き、ご意見を頂いた際は、現場で取り入れる事が出来るよう職員間で話し合いを行っている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	推進会議を利用し、施設の取り組み等を伝え、ご意見をうかがい、協力していただける事はお願いをしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内で勉強会を行い、身体拘束についての理解をしている。玄関の施錠をはじめ、入居者様へのケアの面でも、日々注意を払っている。		

静岡県()

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を行い、虐待について理解し、現場でそのような事がないよう、職員同士で気を付け合いながら防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現状、制度等を学べる機会を設ける事ができていない為、勉強会等を今後開催したいと考えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	日々の面会や電話連絡の際、随時ご家族様の要望を尋ね、不安の軽減を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	推進会議にて、入居者様やご家族様の声を報告させて頂き、現場や運営面で反映出来る様努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	事務所に職員の意見が掲示できるボードを用意し、伝言板のような形で活用している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	負担に偏りが無い様、業務の振り分け、勤務表作成を行っている。やりがいや向上心の面では、就業する中での小まめな声掛けを心掛けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各職員に合った方法等を考え、本人に提案し、経過報告をしてもらいながら随時考えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部の講習会等に参加し、同業者でも様々な役職の方々と意見交換をしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご入居前には、書面での情報を参考にし、ご本人様を知る為、行動や傾聴を大切にしている。ご家族様等からの聞き取りも行い、関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の要望や不安を聞き取り、職員間で共有し、反映している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	聞き取りを細部まで行う。体調や事故の危険性等に合わせ、介護用品等の変更や提案をさせて頂く。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物たたみや食器拭き等を見守りしながら一緒に行い、やり方が分かりやすい様に工夫する。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話連絡時に近況報告をさせて頂き、状況により、ご協力をお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時間を決めず、面会希望の方の都合のつく時に来ていただくようにしている。よく訪れていた場所等へも、職員の動ける範囲であれば頻繁ではなくても行けるように心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の関係性を理解し、共に会話や作業が行えるよう、職員から声掛けを行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご利用機関ではなくても、再度お会いする事があれば、その際は近況等お話をさせて頂く。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の変化に敏感になる。傾聴を大切にし、ご本人が希望を言しやすいような雰囲気づくりを心掛けている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	書面やご家族様からの聞き取りをし、ご本人様にも日常の中で会話をする中で聞き取る。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタル測定をし、変化を見る。食事量や顔色、言動も観察し、他入居者様等周囲との対人関係にも目を配っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様やご家族様と相談をし、意見を聞いたうえで、職員間でも話し合いをしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録や連絡ノートを活用し、またカンファレンスの時間を設け、その都度介護計画を変更している。		

静岡県()

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	既存の方法に捉われず、新しい方法等も考えている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	普段なら廃棄してしまう物でも、楽しみへと変わるよう使い道を探し、一緒に活用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設看護師と情報共有、相談をし、ご本人様やご家族様の希望に沿えるようにしている。かかりつけ医と情報交換や相談を密にしながら関係作りをしている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設看護師やかかりつけ医と細目にやりとりをし、適切な対応が出来る様心掛けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院の際や途中経過等、情報交換を細目に行い、スムーズな流れとなるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	バイタルチェック表を活用、細かく記録をし、ご家族様と相談し、必要に応じてかかりつけ医の医師にも身体状況の説明等をご家族様に直接お話をしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルを作成し、職員間で周知をし、迅速な対応が出来る様心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	同系列の事業所の対策等の情報も取り入れ、災害時の対応や備えを行っていきたいと考えるが、直前になりバタバタしてしまっている現状。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その人がどのような人かを把握し、その人らしさを大切にしながら声かけを行っている。居室等その方が安心できる場所ですごせる時間を作っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	表情を読み取り、こちらから声を掛け思いを表に出せるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その方がその時何をしたいのかを見極め、個々のペースに合わせて、危険のないように支援を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服選びや整容など、その方のこだわりに合わせて声掛けをしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は同席し、入居者様の声を直接聞く。盛り付けや食器拭き等と一緒にやっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その人の状態に応じた食事量を提供し、季節に応じた水分摂取等、気を付けながらの支援を心掛けている。		

静岡県()

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、食べ残しがなく、口腔ケアの見守り、ケア用品を用いた介助を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自尊心に配慮しながら、食前や入床前、声かけを行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品を食事に提供したり、体操等の運動を行っていただくよう促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	希望に沿った入浴を基にし、拒否がある方へは入浴を楽しめるよう工夫している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々に合わせた寝具を使用し、温度調節等もこまめに行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	体調の変化を見逃さないようにし、記録に残し内服の見直しを看護師、医師へ相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の好みをレクリエーションに反映したり、関わりから表情や言動を情報とし、気分転換を行っている。		

静岡県()

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に、散歩、買い物等、個々に声をかけをし支援に努めている。家族や地域の方との外出は現状あまりできていないが、今後提案していきたい。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の安心となるようであれば、ご家族に了承を得て、所持をしていただいている。使用する際は、職員の把握のもとで行っていた。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望がある場合には、事前に職員からご家族などへ連絡し了承を得てからご本人へ繋げるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度計を設置し、過ごしやすい環境になるよう適宜調節をしている。光を入れたり壁に季節感が出るよう装飾をしたりしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとりなじみの空間があり、居心地の良い場所を提供できるよう、自由に動けるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居当初より、使い慣れたものや好きな物を居室に持ってきたり持ち歩いていただくようご家族へお話をしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来るだけ階段で自立歩行を促している。その都度何ができるのか、分かるのかを体調、精神面などから見極める。		

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	10	コロナウイルス感染防止により、現在面会を規制中の為、家族の要望等を聞く事が減っている事。	コロナ禍ではあるが、家族の意見が詳しく知れるようにする。	家族に送付する郵便物と一緒に、意見等が記入できる用紙や、アンケート等を添付する。	12ヶ月
2	11	職員との面談は行うようにしているが、意見が出る事は少ない。日常の現場の中でのコミュニケーションが不足している事が課題と考えられる。	日常内でも、職員とコミュニケーションを図る。	各職員に、ケアについての相談等をして意見を聞いたり、日頃の思いを聞いたり、コミュニケーションをとり、運営に関しても意見を言いやすい環境を作る。	12ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。